

## いじめ防止と自殺予防

いじめの認知件数は年々増加の一途をたどり、千葉県は常に全国で上位になっています。

いじめの認知は、深刻になる前に発見できることが最も重要です。教員、友達、保護者、地域で、子ども自身が一人で悩まず、諦めず、すぐに相談できる環境をつくることも大切です。市教育委員会では学校、家庭、地域でいじめ防止教育や人権教育などを行うことで、いじめている側が気付ける環境づくりを進めています。

### 自殺の状況

全国の年間自殺者数は、平成22年以降9年連続の減少となり、昭和56年以来、37年ぶりに2万1,000人を下回りましたが、平成30年も20,840人もの人が自ら命を絶つという深刻な状況が続いています。

年代別で見ると20代から80歳以上の全ての年代で低下している中、10代は横ばいとなっています。

子どもの自殺の実態分析(内閣府・警察庁調べ)では、児童生徒の自殺の可能性となった背景として、学校に関することでは「進路問題」11.9%、「不登校または不登校傾向」9.9%、「友人関係での悩み(いじめ除く)」7.9%、「学業不振」6.9%、「異性問題」5.8%、「教師からの指導」2.8%、「いじめ問題」2.0%でした。

家庭に関することでは「保護者との不和」9.9%、「保護

者の離婚」6.5%、「経済的問題」4.6%でした。

個人に関することでは「精神科治療歴」13.5%、「独特の性格傾向」10.5%、「自殺をほのめかす」10.1%、「自傷行為」8.3%、「孤独感」7.5%となっていて、学校、家庭、個人、それぞれの要因が複雑に関連し合っているといえます。

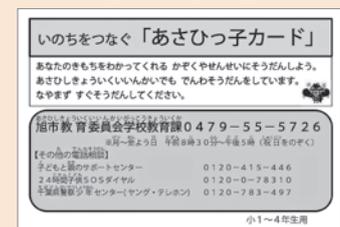
### 一人で悩まず、すぐに相談を

一人で悩むことはとてもつらいことです。一人で抱え込まず、周りの誰かにすぐに相談することで、多くの人が問題を乗り越えています。

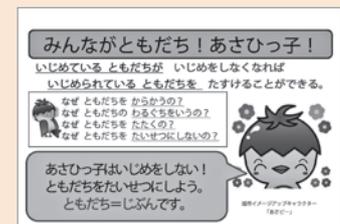
市教育委員会では、市内の子どもたちが元気に学校生活を送ってくれることを願い、今年8月に小中学校の児童生徒全員に「いのちをつなぐ『あさひっ子カード』」を作成し、配付しました。

これにより、さまざまな悩みを抱えた児童生徒に相談窓口を知ってもらい、いじめ防止や自殺予防などに対する周囲の意識を高め、相談しやすい環境づくりや注意喚起を進めていきます。

いのちをつなぐ「あさひっ子カード」  
(小1~4年生用)



(表)



(裏)

## あさひ輝いた人々 第14回

### 旭の生んだ俳人

はっとり こうろう  
服部 耕雨  
(1851~1917年)



服部耕雨

はっとり こうせき  
服部 耕石  
(1875~1939年)

服部耕雨と耕石は親子です。村の豪農の家に生まれ、共に俳句で大きな足跡を残しました。

服部家の祖先是江戸に住み、代々治左衛門を名乗りました。椿海を干拓する時に、辻内善右衛門に資金を貸し、その縁でこの地に住み着いたといわれています。

耕雨は嘉永4(1851)年に服部米二郎の長男として生まれ、名を栄三郎といました。服部治左衛門家に養子に行き、八代目治左衛門を名乗りました。明治の中頃までは、400町歩(約400ヘクタール)の土地を持っていた大地主でしたが、人生の後半は俳句の道に励みました。耕雨と号し、詩情豊かな俳句を作ることで東総地方では大御所的な存在であり、中央俳句界にも名前が知られて

いました。大正6(1917)年に亡くなりました。

耕石は明治8(1875)年に服部耕雨の長男として生まれました。父耕雨の影響で、幼いころから俳句に親しみました。耕石は句誌「高潮」を創刊し、俳句の普及に努めるとともに、自らの句集も発売しました。句集「おぼこ」は、耕石の作った631句が収められている貴重な句集です。ほかにも俳句文法を出版したり、ラジオで俳句講座を行っていたりしていることから、彼の俳句に対する熱意が伝わります。

俳句だけではなく、木や石などに文字や印を彫る篆刻家としても有名で、宮内省御用係として活躍し、昭和2(1927)年には篆刻事典を出版しました。昭和14(1939)年に亡くなりました。

昭和52(1977)年、見広の雷神社に耕石の句碑が造られました。「いかづちの神の氏子や大戦」

琴田の海宝寺にも二人の句碑があります。「籾の声 銀河や墜ちて碎け舞」耕雨  
「甘藷の花 秋の暑さをあつめたり」耕石



耕雨と耕石の句碑(海宝寺)